

骨太方針 2026：四半世紀ぶりの転換と「市場の信認」という難題

政策の抜本的転換（責任ある積極財政）

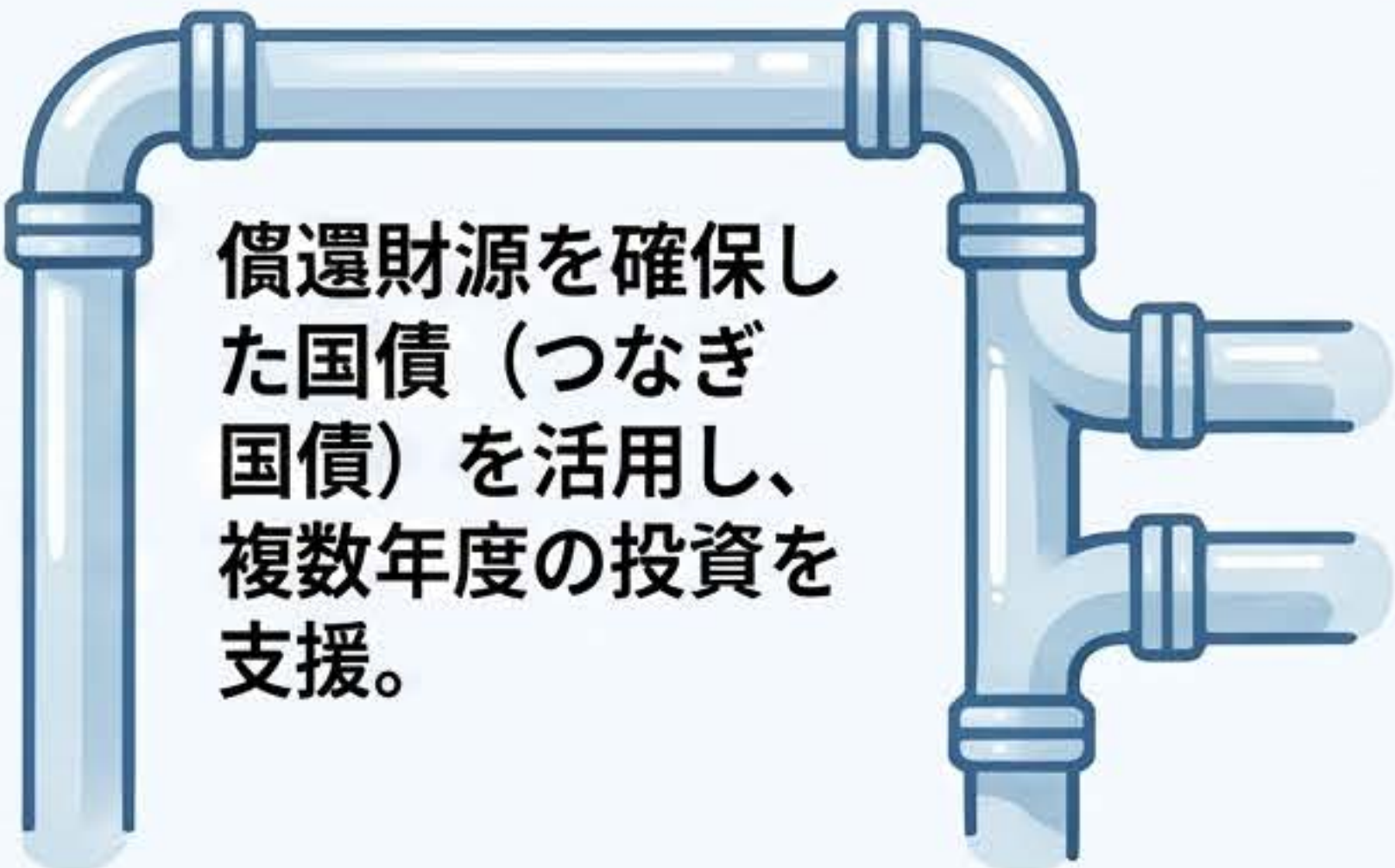
直面する課題（市場の警鐘と持続可能性）



370[¥]兆円超

2040年度までに累計370兆円超の官民投資
（名目GDP 1,100兆円目指す）

「強く豊かな日本」
投資枠の創設



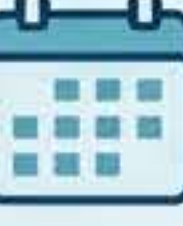
償還財源を確保した
国債（つなぎ
国債）を活用し、
複数年度の投資を
支援。



市場の拒絶反応
「骨太ショック」
長期金利が一時約30年ぶり
の高水準へ急騰し、財政
リスクへの懸念が顕呈。



楽観的な経済成長
前提への依存
米国を上回る生産性向上を
前提とした「成長実現ケース
ス」に依存するリスク。

重点項目の変化	
従来（2025以前）	骨太方針 2026
 最優先指標： PB（基礎的財政収支） の黒字化	 最優先指標： 債務残高対GDP比の 安定的低下
 政策の重心： 賃上げ・分配重視	 政策の重心： 成長・投資重視
 予算編成： 補正予算への依存	 予算編成： 当初予算中心 （財政単年度主義の是正）



問われる財政規律と
予算の「質」
要求上限のない投資枠に対し、
真に成長に寄与する事業を選
別する査定能力が不可欠。